

経営比較分析表（令和5年度決算）

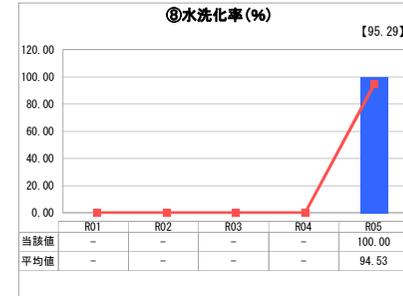
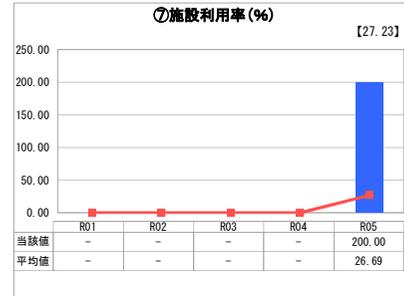
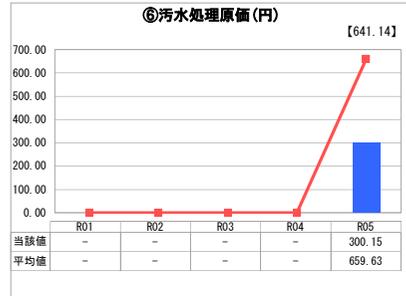
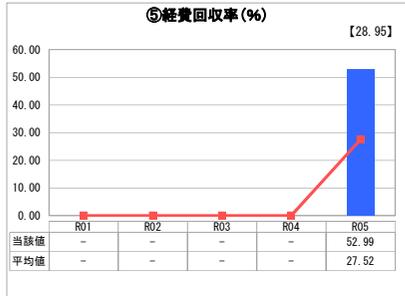
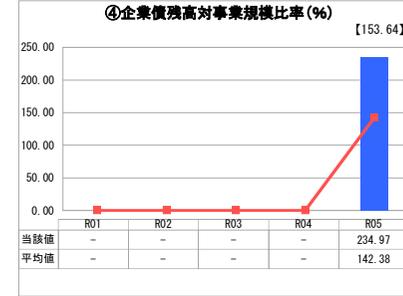
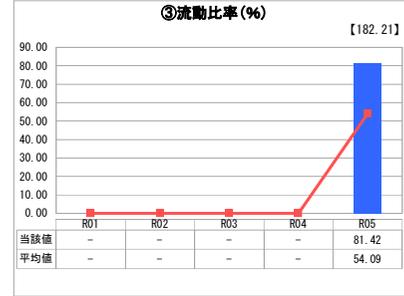
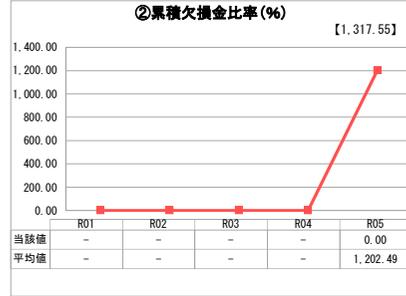
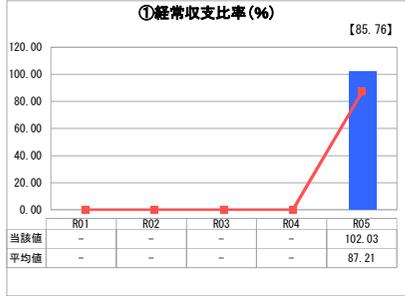
和歌山県 有田川町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	簡易排水	J2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	92.29	0.15	100.00	3,630

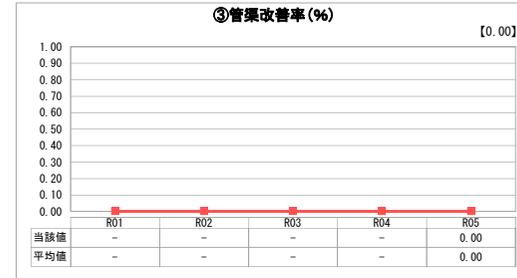
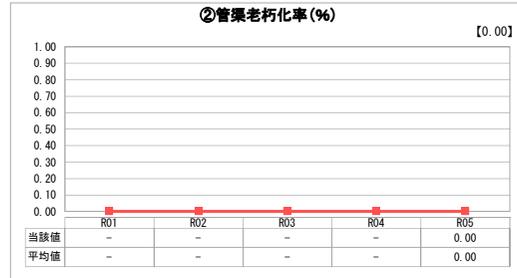
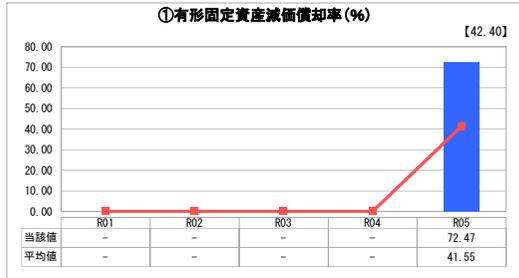
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
25,412	351.84	72.23
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
39	0.05	780.00

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

有田川町の簡易排水事業は、旧清水町清水栗林地区において平成8年度に事業着手し平成9年度に供用開始しました。令和5年度より公営企業会計に移行し、適切な経営に取り組んでいます。各指標について類似団体と比較すると「経費回収率」は平均値よりも良好な数値で推移していますが「費用対回収すべき経費を全て賄えていない状況」になっています。「汚水処理原価」「施設利用率」「水洗化率」についてはいずれも良好な数値を示しており、効率的な経営であると考えられます。

2. 老朽化の状況について

管渠の耐用年数が50年であることを考えると、老朽化による管渠改善・更新は現時点においては必要ないものと思われます。そのため、管渠の更新等は未実施であり、③管渠改善率について当該値は0%となっています。しかしながら、管渠の老朽化も避けられないものであるため、処理施設・設備・管渠等を含めた総合的な維持管理計画の策定や改築・更新に係る財源の確保が今後の課題です。

全体総括

徐々に区域内人口が減少しており、今後は使用料収入も減少していくことが予測されます。このことから引き続き健全な経営を続けていくためには維持管理コストの削減及び施設の機能保全に努めることはもとより、老朽化に伴う修繕費の増加に対する財源を確保していくことが必要であると考えます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。